平成２２年度「特色ある学校づくり対策事業」実践報告書

佐世保市立大野中学校

所在地：佐世保市松瀬町 838 番地
校長名：宮﨑　義高
生徒数：592 名（18 学級）
校　訓：「至誠をもって生涯を貫こう」

１　特色ある学校づくりに対する基本姿勢

本校は、一昨年まで「授業改善」の指定を受け、道徳教育の研究を推進してきた。生徒の心の教育や道徳実践力を図るため、道徳の授業はもちろんのこと、各教科や日々の教育活動の充実、教育環境の整備を行ってきた。そこで、本年度は、昨年度までの研究の成果の上に、人権意識を向上させ、感動する心や思いやりの心、目標実現に立ち向かうための確かな学力、それらを生かす活動力を培っていくことが重要だと考え、**「豊かな心の育成」と「確かな学力の定着」の二本の柱**で、特色ある学校づくりに努めている。

２　テーマ

佐世保をこよなく愛し、豊かな心と確かな学力を持ったたくましい大野っ子の育成をめざして

３　実践内容

（１）実践へ向けた校内研究組織体制の確立

目標を具現化するために、校内研修の組織を昨年度改編し、「授業研究部」「生徒指導研究部」「生徒活動研究部」の３つの部を設け、部の責任者を中心に企画・調整を行った。

（２）「カノコユリ」や草花の育成

郷土である佐世保をこよなく愛し、「住みよい佐世保」「住みたい佐世保」を創造する生徒の教育に思いを馳せ、佐世保市花「カノコユリ」の育成及び草花の育成に取り組んだ。カノコユリの開花時期の８月には、カノコユリ園だけでなく，校内の土手のあちこちに大輪の花を咲かせ，生徒はもちろん、地域、保護者の方々の目をも楽しませてくれた。

（３）総合的な学習の時間の推進

各学年のあすなろタイム（総合的な学習の時間）について紹介する。

①□野外宿泊学習（第１学年）

平成22年11月10日～12日の３日間で実施した。本校の生徒は校区内の２つの小学校から入学してくる。そして１か月間は、小学校の友人関係の枠内で生活をする傾向にある。この宿泊学習に参加させることで、新しい友人関係を築き、その後、3 年間の中学校生活を充実したものにしてほしいという願いがある。また、生活指導の面においても、自主的に動いて活動を盛り上げることを学ばせる最初の機会であるととらえている。生徒たちはリーダーとして班や学級を引っ張る生徒の姿も見られ、意義ある学習となった。

② 修学旅行（第２学年）

平成22年10月26日から28日の２泊３日、京都・大阪・福岡方面への修学旅行を実施した。１日目の京都班別自主研修では、各班とも意欲的に取り組むことができた。途中、道に迷い、予定どおりの見学ができなかった班もあったが、それぞれの班は十分に満足し、学習を深めることができた。２日目の金閣寺見学では、日本の文化に直接ふれ、ユニバーサルスタジオジャパンでは、友情を更に深めることができた。３日目は、九州国立博物館を見学し，自分たちの身近な歴史にふれ，人類の英知を改めて心に刻むひとときを過ごすことができた。天候にも恵まれ、学校でできない体験学習を、実際の見聞を交えて、大変有意義に取り組むことができた。学んだ成果を、これからの生活に生かしていくことができるものと確信している。

③ 平和・人権学習に向けた取り組み（全学年）

本校は、平成８年４月に痛ましい事件が起き、そのことを教訓として「いのちを考え、大切にする」ために「あすなろタイム」を設定し学習を行っている。

今年度は、４月２６日のＰＴＡ総会を兼ねた授業参観において「一斉道徳」の授業公開を行ったのを皮切りに、人のいのち，人間固有の権利について，年間を通して考えていく活動を展開した。６月１日の「いのちを見つめる日」では、一人一人のいのちの重さを考えた。８月９日の平和集会では、平和集会実行委員を中心に、戦争の悲惨さ・原爆の恐ろしさについて、まとめたことをスライド等を用いて発表し、全校で平和の大切さについて改めて考えることができた。１１月には，ピアニストの田辺誠一さんをお招きして、「講演会・演奏会」を実施し、からだの不自由さをもろともしない迫力のある演奏に、生徒たちの心は大きく揺さぶられ感動をいただいた。また、12 月 10 日の人権集会では、いじめアンケートの集計結果と考察、いじめについて考える劇等、人権集会実行委員を中心に人権への思いを深めた。

④ 年間を通した教育相談活動（全学年）

５月のあいさつ訪問（家庭訪問）時に、希望のある家庭・生徒を対象に、教育相談を実施した。また、７月・１１月・１月には二者面談（３年生の１１月は三者面談）と、夏季休業中には三者面談を実施した。生徒の考えや悩みを聞くことで、生徒の心に寄り添う教育活動の展開ができ、落ち着いた学校生活を送る生徒の姿が見える学校へと変容をとげつつある。

（4）学力充実に向けた取組

①　大野中マイスター制度

学力充実のため、学習意欲を向上させる策として、本年度より「大野中マイスター制度」を開始した。これは、各種検定（英検、漢検、数検）と家庭学習時間を総合して、より模範となる成績（3 つの検定すべてで 3 級以上等）をあげた生徒を、表彰するという制度である。また、「家庭学習の旅」というカードを全生徒が記入し、家庭学習１時間を１ｋｍと換算し、どこまで旅を続けられるか、といった、自己教育力の育成を図った。

11 月に行った「家庭学習強調週間」における家庭学習調査では、学習意欲の向上がみられ、今後継続して取り組むことで、学力の向上が期待できる。

②　朝読書の推進

本校では、8 時 30 分から朝の読書活動を一斉に行っている。生徒会図書専門委員会活動として、図書専門委員長と各学年代表者が毎日教室を巡回し、準備をするように呼びかけている。この朝読書を実施することにより、生徒たちは落ち着いた雰囲気で学校生活を始め、１校時の授業にも集中した状態で取り組むことができている。

また、図書ボランティア「パセリの会」のご協力をいただき、本の貸し出し、読み聞かせなどを行い、本により一層親しみを持ってもらう取組を展開している。

④　学習の５か条

「ベル着・学習準備・あいさつ・姿勢・返事」を各クラス掲示し、全職員で取り組んだ。また、「テストの受け方・心構え」等に関する掲示物を作成して学級内に掲示した。望ましい学習環境・学習態度やテストを受ける際の心構えを全職員で指導し、通常授業、研究授業等で点検を行い学習に対する基本的な心構えの育成、醸成に努めている。

⑤　TT や少人数授業の実施

数学科、理科、英語科、音楽科、美術科、技術･家庭科等において、ＴＴの授業を実施し、個に応じたきめ細やかな指導の工夫を行うことができた。

⑥　家庭教育講座

年４回の予定で、学校と家庭が連携して取り組む学力向上を目的として、「家庭教育講座」を実施している。第１回目は、保護者の子育てへのアンケートをもとにして、８月下旬に行った。第２回目は、スクールカウンセラーの冨﨑朋子先生を講師にお招きして、「思春期の子育て」についてお話しいただいた。今後「学校の進路指導」「年間のまとめ」等を行い、家庭と一体となった子育ての方策をさぐっていきたい。

（5）心の教育の充実

①　道徳の授業の充実

本校は、平成 19、20 年度の 2 年間にわたり佐世保市教育委員会より「授業改善」の研究指定を受け道徳教育の研究を推進してきた。それを受けて、生徒の心の教育を充実させ、道徳的実践力の向上を目指し、道徳の授業はもちろんのこと人権教育を基本として、各教科や日々の教育活動の充実、教育環境の整備を行っている。

② 環境整備

伝統ある学舎で学習することのありがたさに思いを馳せ、日々の清掃活動はもちろんのこと、普段時間がとれずにできなかったところも丁寧に環境整備ができるように、大掃除などの時間を設けて全校生徒で取り組んだ。さらに、夏季休業中には，６回にわたり校内通路のペンキ塗り活動等、「おやじの会」の協力による環境美化活動も行われた。１２月には、正面玄関に正月の門松も作成していただき、登校する生徒の心に日本の伝統文化を伝えることができた。

③ 性教育講演会，食育講演会

１０月に，３年生を対象とした性教育講演会を、井上産科婦人科医院の山口千恵子助産師を講師として実施した。現場で働く助産師の方をお招きし、情報が氾濫する中で自分たちの体と心を守るための方策として必要な資質を、DVD 等を利用してお話しいただいた。

また、12 月には食育講演会を、全校生徒を対象に実施した。長崎県スポーツ科学・栄養研究会の村元淑子管理栄養士をお迎えし、「学力アップのための食生活」という演題で、学習、運動に役立つ食事の取り方についてお話しいただいた。食事について具体的な生活の仕方をお話しいただき、生徒の生活習慣の変容につながるものと期待している。

④ おにぎりの日

11 月 19 日に，おにぎりの日を実施した。これは。全生徒が自分でお昼のお弁当としておにぎりを作ってくることで、お弁当を作る保護者の気持ちを振り返ったり、食べることへの意識を向上させることを目的とした。さまざまなキャラクターのおにぎりやおかず入りのおにぎりなど、楽しそうにおにぎりを頬張る姿に、食と心の関係を改めて確認できた。食に対する関心を高め、基本的な生活習慣の定着につながるものと考え、今後も定期的に取り組んでいきたい。

⑤ 職員研修

現職教育という観点から，人権教育に関する研究会を実施した。私たち教職員にも、人権に関する知識が希薄であったり、特別支援教育についての理解が不足している面もある。より人権意識を高める教育力の向上のために、真剣な姿で研修に臨む姿が見られた。また，スクールカウンセラーを活用して，不登校や特別支援教育について，対応のあり方や情報交換をすることによって理解を深めた。

⑥ スクールカウンセラーの活用

スクールカウンセラーの配置に伴って本校では，生徒がスクールカウンセラーと自由に話をしたりすることができるよう，昼休みは「ほっとルーム」を開放している。また、現職教育の研修では、スクールカウンセラーによる生徒理解のあり方等の研修を深めた。

⑦ Ｑ－Ｕによる学級経営の実態把握

全学年に標準検査 Q-U を実施した。Q-U は学校生活意欲と学級満足度の二つの尺度と自由記述アンケートで構成されており、学級経営の円滑な運営に大きな効果を上げている。また、自由記述においてさまざまな相談を書いており、担任との心の対話を果たす役割も担っている。